

フィボナッチ ブレイクアウト手法

～method編～

～小さなリスクで最大のリターンを狙う♪～

FXで勝利の音色を奏でよう♪

ブログ : <http://jaguar5150.seesaa.net/>
twitter : <http://twitter.com/fxjaguar>

<著作権に関して>

本書は著作権法で保護されている電子書籍です。
取り扱いに関しては以下の点に御注意ください。

本書の著作権は本著作者に属します。筆者の書面による事前許可なく、本書の一部または全部を、印刷物、電子ファイル、ビデオ、DVD、テープレコーダー、ホームページ等のあらゆるデータ蓄積手段により、複製、転載、売却(オークション含む)等をする事を禁止いたします。

本書に含まれる情報は、著作権によって保護されています。
本書を取得した個人または法人は、本書から得た情報を著者の書面による事前許可を得ずして出版、講演活動および電子媒体による配信等により、一般公開する事を禁止します。また、本書を第三者に譲渡、売却する事を禁止します。

本書を取得した個人または法人は、自らの使用においてのみ本書に含まれる情報を使用できるものとします。

<免責事項>

本書は情報提供を唯一の目的としたものであり、収益の保障、或いは、直接的に投資助言業務、投資勧誘を行うものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定は、リスク等を熟知した上、ご自身で判断されますようお願いいたします。

本レポートの利用、あるいは取引により利用者に生じたいかなる損害についても著者それに対し、一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

～はじめに～

FXで勝利の音色を奏でよう♪

「期間限定特別レポート」

「FXで勝利の音色を奏でよう♪」管理人の「jaguar」と申します。
この度は、【FXで勝利の音色を奏でよう♪】期間限定特別レポートをダウンロードしていただきありがとうございます。

今回のレポートではトレーダーの間で人気の「フィボナッチ」を使用して「損小利大」を狙ったトレード手法を執筆しました。

はじめに、このレポートを執筆するきっかけをお話したいと思いますが、私が実際にトレードで運用している手法「CCI-4 時間足手法」というものがあります。
「CCI-4 時間足手法」<http://jaguar5150.seesaa.net/category/10117483-1.html>

この「CCI-4 時間足手法」もレポートにしている、こちらは証券会社さまとタイアップとなっておりますが、今回の「フィボナッチ・ブレイクアウト手法」レポートは、主に「CCI-4 時間足手法」のレポートをお申し込みされた方へ追加レポートという形で執筆しました。

「CCI-4 時間足手法」ではトレンドに沿った押し目買いや戻り売りといったパターンを狙う手法です。

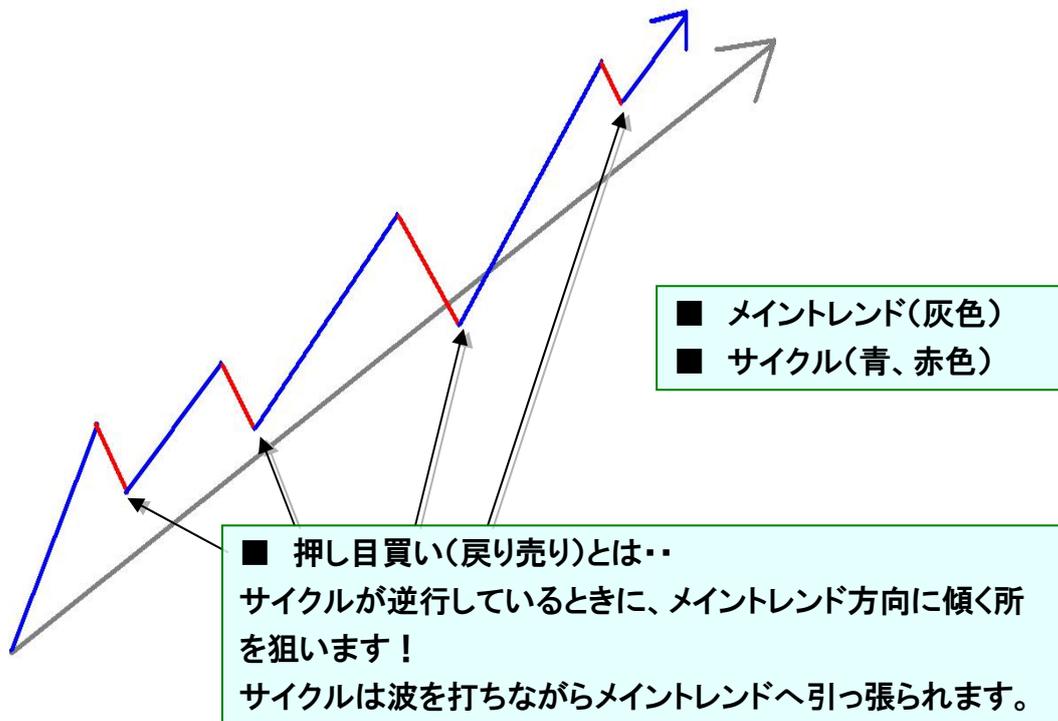
この手法だけでも実際には「有効な手法」なのですが、エグジットルールで決済した後更にトレンドが継続するパターンも多々あります。

今回のレポートでは「CCI-4 時間足手法」でポジションを決済した後、フィボナッチを使用して次の値動きに備えるといった拡張手法です。

こういう風には「CCI-4 時間足手法」を知らない人にはチンプンカンプンでは？と思われがちですが、この手法は単独でも十分使えますので是非当レポート最後までお付き合いいただければと思います。

～トレード方法～

- 相場にはメイントレンドとサイクルという波が存在します！



早速ですが、「フィボナッチ・ブレイクアウト手法」の解説に入りたいと思います。
相場には上記のようにメイントレンドが存在します。
小さな時間軸で上下にサイクルを打ちながらもメイントレンドの方へ引っ張られて価格が推移するケースがほとんどです。

「トレードは順張り！」

という言葉があるように今回の手法もメイントレンドに逆らってポジションを建てる事はしません。

狙うのはメイントレンド方向のみです。

初心者の方はメイントレンドとサイクルをどのように判断したら良いのかわからない方が多いかと思います。

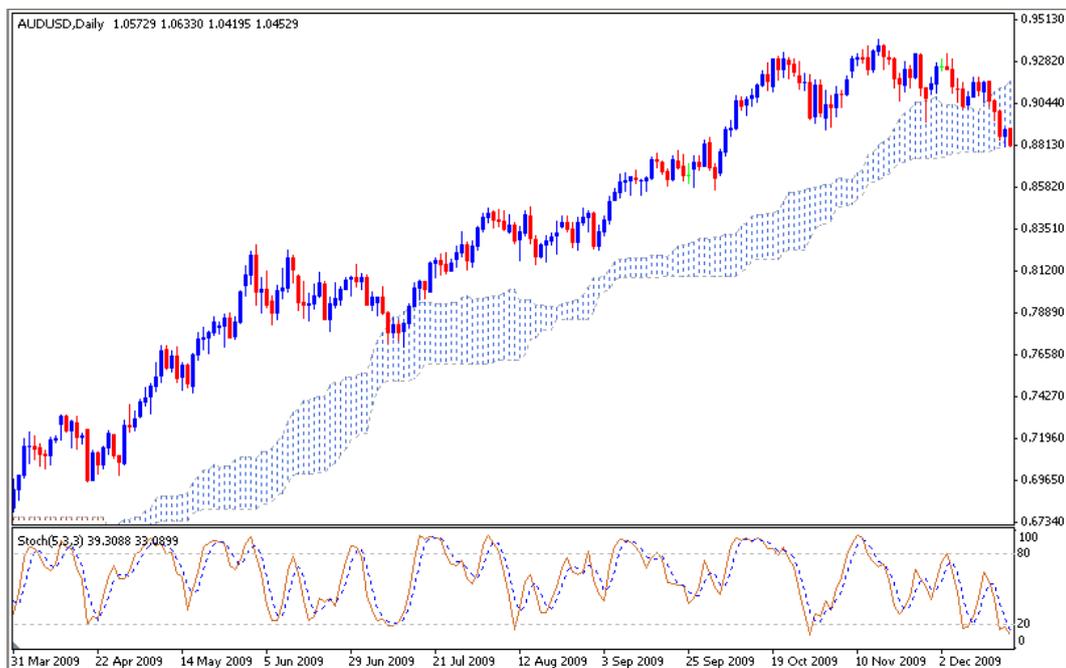
私も実際にFXをはじめた頃は時間軸を変えるだけで上昇にも下降にも見えるチャートに大変困惑しました。

他の方の意見を聞いていても「上昇トレンドだから～」と単純に説明していて、一体どの時間軸を見ながら考えているのだろうか？と色々な情報に振り回されていました。

トレンドの判断を自分でできないと、ポジションと逆行した少しの値動きで不安になり、自信を持ってポジションをキープする事ができなくなるので、損小利大トレードを実効する事は大変難しいと思います。(ストレスとの戦いにもなります)

ここでは、あくまでも参考例として見ていただきたいのですが、簡単に判断するなら下記のような方法もあります。

【図 1: 一目均衡表 & ストキャスティクス】



【図 2: 移動平均線 & ストキャスティクス】



図 1 では一目均衡表の雲のみとストキャスティクスを重ねています。

図 2 では図 1 の雲の代わりに期間が長めの移動平均線を重ねていますが、図 1 で解説すると雲の上にいる間は上昇トレンドと判断して、短期的なサイクルをストキャスティクスで判断するといった方法です。

図 2 ではトレンド判断として長期移動平均線を使用するといった感じです。

他にもマルチタイムフレーム分析やアイデアは色々ありますが、今回は一つの時間軸だけでトレンドとサイクルを判断する方法を紹介しました。

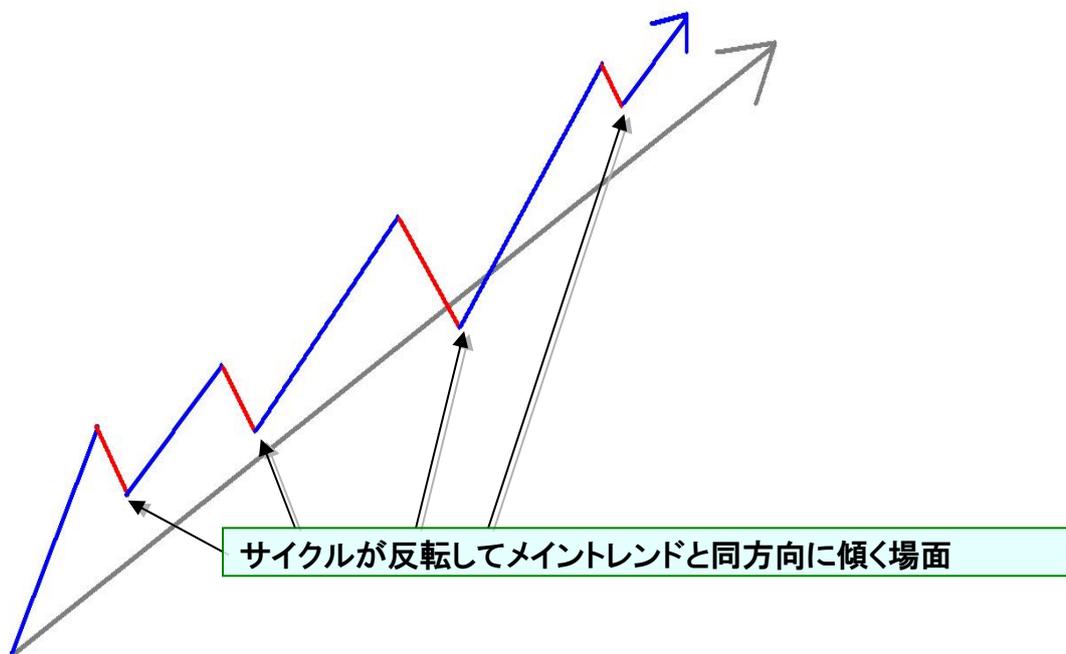
ポイントはテクニカルをプロットするにも大きめの時間軸と短期的な値動きを意識した数値を使用する事でしょう。

マルチタイムフレーム分析については私のブログでも実例で記事にしていますので、良ければご覧ください。

○ [マルチタイムフレームに関する記事](#)

このトレンドとサイクルの判断ができるようになれば、次はフィボナッチ分析をするポイントを解説したいと思います。注目するポイントはサイクルが反転するポイントです。(下記の図矢印)

フィボナッチで分析する&トレードを仕掛けるポイントは**サイクルの反転が確認できてからになります。**



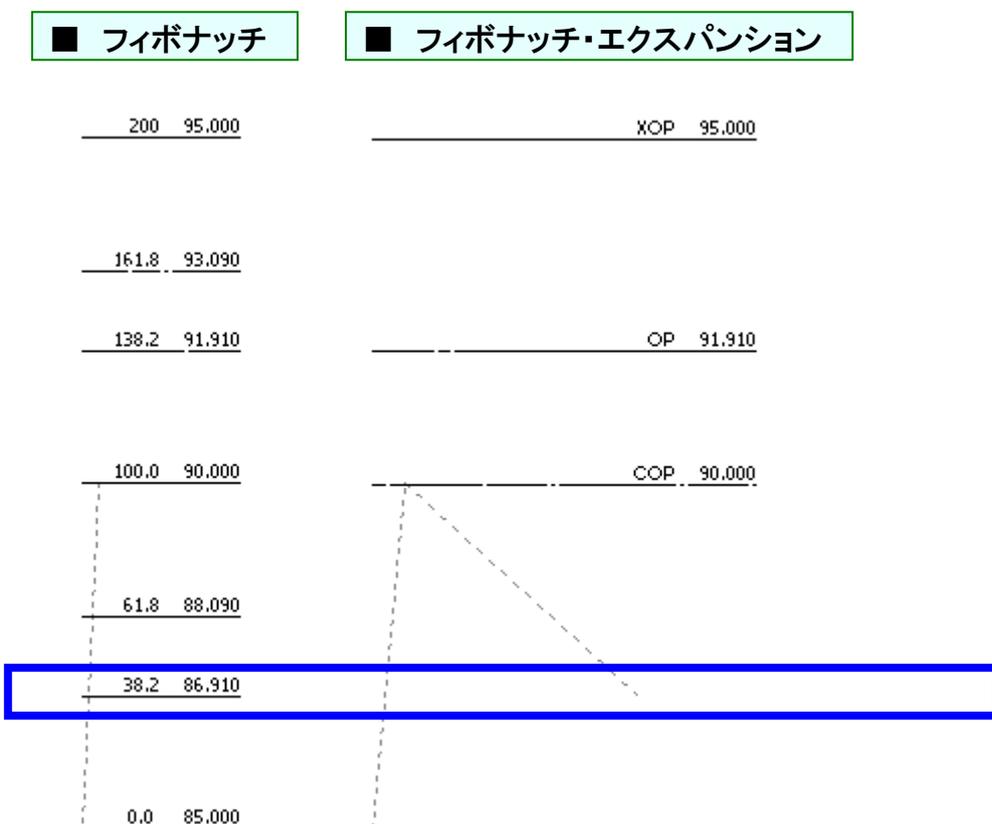
この「**サイクルの反転が確認できてから!**」というのがポイントですが、図1で簡単に判断するならばストキャスティクスが買われすぎ、売られすぎといったポイントから中央ラインの50まで上昇すればといった定義の仕方でも良いかと思えます。

「CCI-4 時間足手法」を使用している方はポジションを決済するポイントが反転確認ポイントとなり、この反転確認ポイントに注目してフィボナッチを引いてトレード注文を入れていきます。

そしてフィボナッチの使い方なのですが、この手法ではフィボナッチを重要な高値-安値に引いて市場の大多数が注目するポイントを算出して抵抗となるポイントを探るといった目的で使用しません。

ここでフィボナッチを使用する目的は**トレード管理**の為です。
このトレード管理とは、損小利大のトレードをする為にリスクに対してのターゲット値を算出するリスク・リワードに注目した使い方です。

下記の図をご覧ください。



左にはフィボナッチ、右には目標値を算出するのによく使用されているフィボナッチ・エクステンションを引いています。

これは例として安値 85 円、高値 90 円と設定して引いています。

フィボナッチ・エクスパンションでは 3 点目にフィボナッチの 38.2%の 86.91 を引いています。

フィボナッチ・エクスパンションの COP,OP、XOP という値はよくターゲット値で使用されますが、良く見ると COP=100%、OP=138.2%、XOP=200%と一致しているのがわかります。

今回の手法では主にエントリーポイントは 38.2%となりますが、38.2%で仕掛けた後、ターゲット値は 100%、138.2%、200%を目標値とします。

ストップを 0%として、このトレードのリスク・リワード比を計算してみると、

- ・ 100.0% = 1 : 1.61
- ・ 138.2% = 1 : 2.61
- ・ 200.0% = 1 : 4.23

となります。

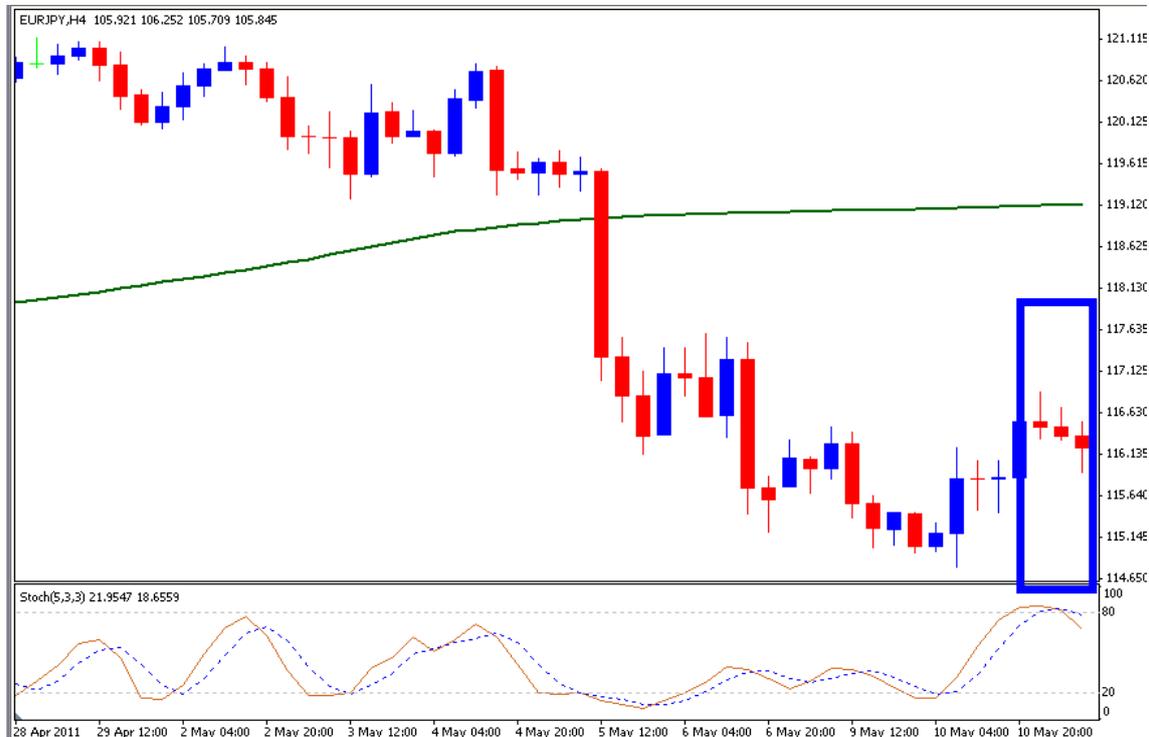
200%を目標としてトレードを重ねていけば勝率が 30%でも利は残る計算となります。

実際には狭いストップを採用するとストップ貧乏になる恐れがありますが、トレンドが明確であり、サイクルの反転ポイントを的確に捉える事ができれば、「小さなリスクで最大のリターンを狙う」事は可能となります。

それでは早速実際のチャートを見ながら解説したいと思います。



【2011/5/11 EUR/JPY 4時間足】



例題として、2011/5/11 の EUR/JPY 4 時間足チャートを見てみたいと思います。

「CCI-4 時間足手法」レポートを読まれた方は使用するテクニカルをプロットしてチャートを確認されてください。

青の四角で囲っている箇所は「CCI-4 時間足手法」を使用してショートポジションを利食いとなっているパターンです。

しかし、リミットまで到達せず薄利決済となっていますね。

「CCI-4 時間足手法」はどちらかというと勝率重視の手法なのでリスクと利食いのリスク:リワードは 1:1 ぐらいなのですが、この後の下落を取れないのは悔しいですね。

では、ここから実際にフィボナッチを引いて見ていきましょう！



「CCI-4 時間足手法」でエントリーとなった足とイグジットとなった足の期間から最高値-最安値にフィボナッチを引いています。

最高値=116.878

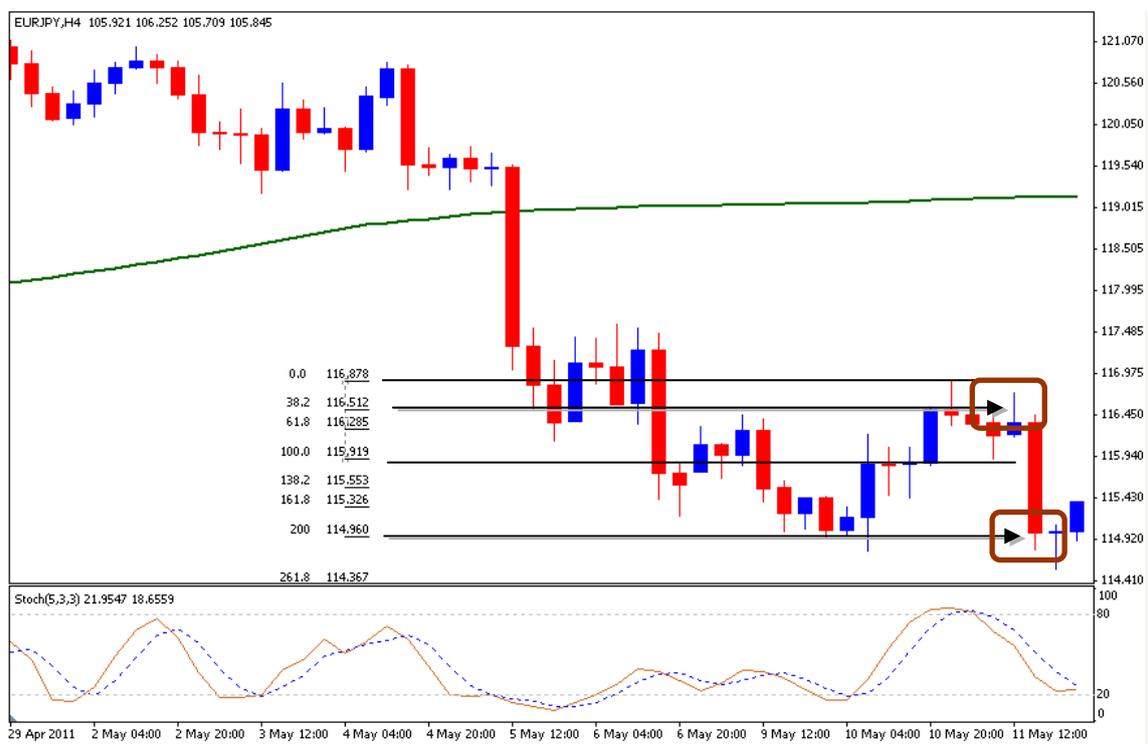
最安値=115.919

「CCI-4 時間足手法」では一番右のローソク足の終値が確定した段階で一旦ポジションを手仕舞う形になります。

そして上記のように最高値から最安値までフィボナッチを引いて、38.2%の所にショート指値注文、ストップは0%の116.878、リミットは200%114.96にIFO注文を入れます。

(実際にトレードする場合のストップは0%より少し上に置いていた方が無難です)

さて、その後のチャートは・・



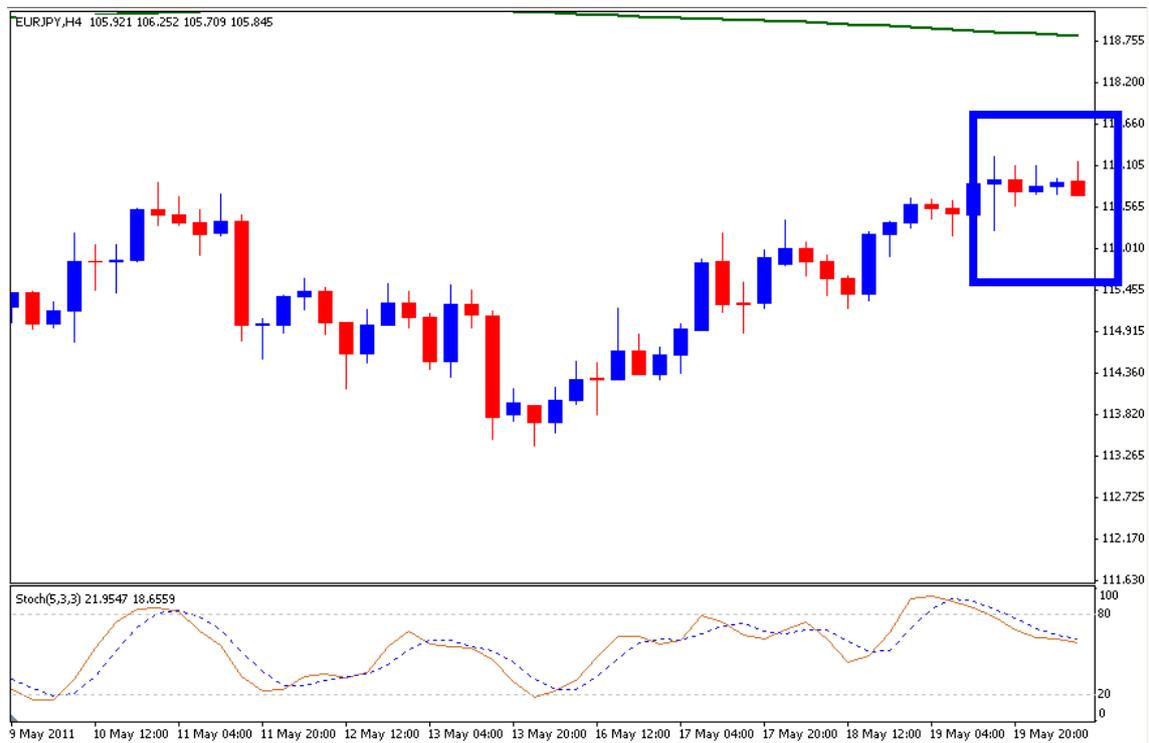
もちろん、例題として用意しているチャートなので上手くいっているパターンとなっているのですが、**リスクを1としてその4.23倍のリターンを獲得できています！**

このようにフィボナッチは抵抗となるポイントを探るツールだけでなくトレード管理として使う事もできます。

さて、次のパターンを見てみたいと思います。



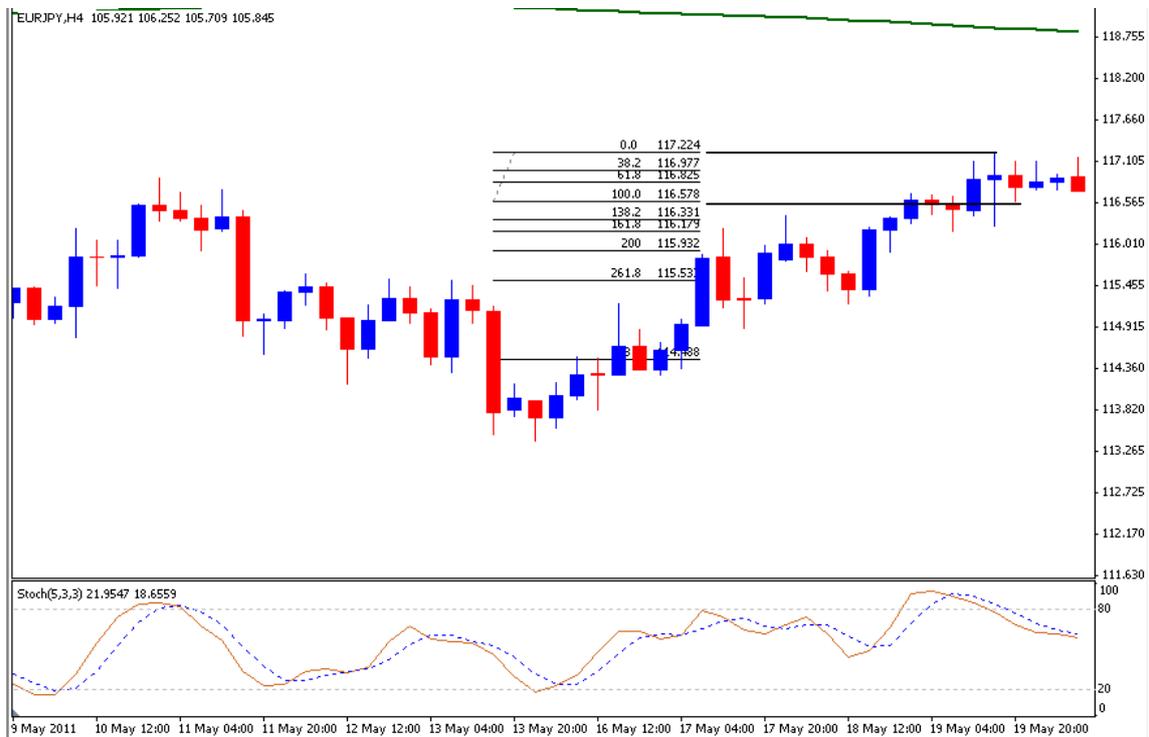
【2011/5/19 EUR/JPY 4時間足】



先ほどのユーロ円チャートを少し進めた段階で、また「CCI-4 時間足手法」のショートサインがでて利食いとなっている場面です。

では、早速ここからフィボナッチを引いてみましょう。





上記のようなフィボナッチラインとなりました。

ストップを置く0%は直近の最高値になっていますが、もう一点の100%はあまり重要ではない所に引いているように見えます。

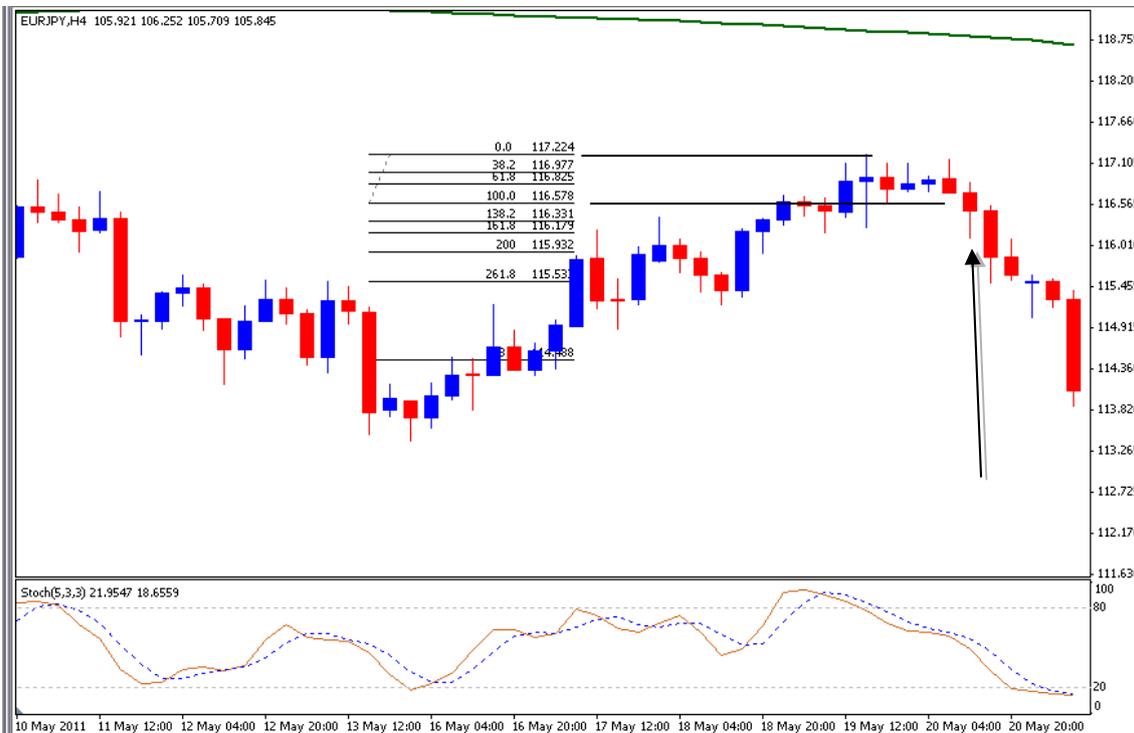
これは「CCI-4 時間足手法」でショートポジションを保有期間中の最安値に引いています。

イメージとしては「CCI-4 時間足手法」でポジションを保有中を一つのレンジと判断しています。

なので、ポジション保有期間中の最高値-最安値を目安としてフィボナッチを引いていきます。

ただし、ストップに関しては直近に最高値や最安値がある場合はそちらを採用します。

0%=117.224、38.2%=116.977、100%=116.578にそれぞれ注文を入れてその後の経過を見ましょう。



今回も思惑通り下落♪

という気持ちにさせるチャートですが、実際は今回ノートレードとなっています。何故かと言うと注文を入れ始めたのは矢印のローソク足の始値なので38.2%に届かず下落しているからです。

38.2%で指値注文を入れる場合は、上手くいけば小さいリスクで大きなリターンを狙うことができますが、思惑通りにチャートが推移しても利益に繋がらないケースがあります。

そこで、指値注文が通りやすいように手前の61.8%に指値を置くという手もありますが、もう1パターンとして100%で逆指値注文をオーダーするのも「有り」でしょう!

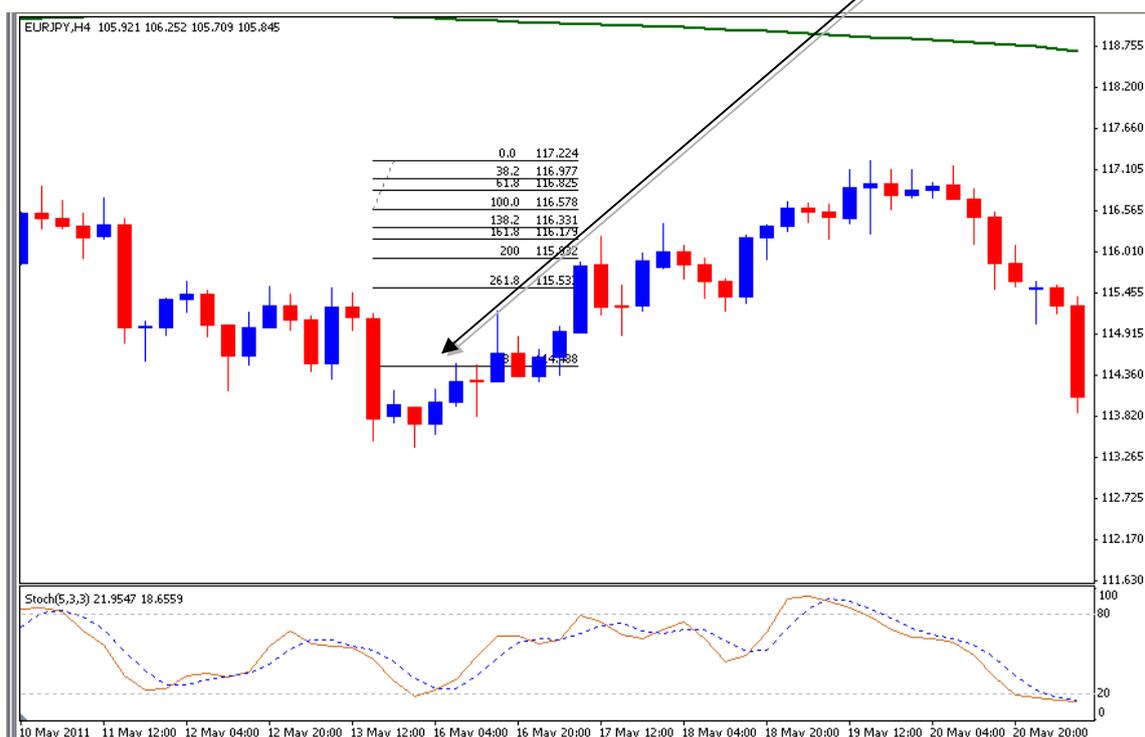
逆指値注文の利点は思惑通りにチャートが動けば必ずポジションは出来ていて利益がでています。逆に動いた場合でもポジションがないので損がありません。指値トレードでは逆に動けば確実に損します。

ただし、ストップ幅が遠くなるので 261.8%を目標とした場合でもリスク 1 に対してリターンは 1.61 と減少してしまいます。(勝率 40%で利が多少残る)

実際に逆指値で勝負する場合の注文は、

- ・ 100%=エントリーの逆指値注文
- ・ 0%=ストップ
- ・ 200% or 261.8%=リミット
- ・ リスク・リワード=「200%=1:1」、「261.8%=1:1.61」

ちなみにこのチャートで 38.2%の指値注文が通っていたとした場合、423.6%=114.488(ローソク足で隠れて見えにくい。)にリミットを設定した場合のスクリワードは 1:10 と驚異的な損小利大トレードとなります！



しかし、このチャートを見て言える事はトレンドが下向きであれば、前回の安値を更新する。もしくは反転する為にもダブルボトムをつけに行く。というイメージができるのではないのでしょうか？

このようなイメージができるなら 423.6%も十分な射程範囲内です。

実際に私がこの手法を使う時は、その時の日足の状況や自分の相場観などを立ててターゲット位置をその都度決めていきます。

後は、「CCI-4 時間足手法」でポジションを決済した後に強く下落する、もしくは上昇するイメージがある場合は 38.2%に指値注文、100%に逆指値注文を入れています。また保合となると判断しても 38.2%で指値して 100%をターゲットとしてもリスク:リワードは 1:1.61 となり損小利大トレードとなります。

今回の「フィボナッチ・ブレイクアウト手法」は「CCI-4 時間足手法」と違って機械的にできる手法といった手法ではなく、使う場面を自分の相場観で選ばないといけないのですが、上手く活用できれば強力な武器となる手法でしょう。

最後にフィボナッチのトレード管理表をつけておきます。
この管理表を見ながら是非損小利大トレードを実現してください

少し宣伝になりますが、この「フィボナッチ・ブレイクアウト手法」は「CCI-4 時間足手法」と絡めて使用すると、使う場面もある程度絞る事ができ精度を高める事ができると思います。

まずは、こちらのURLに「CCI-4 時間足手法」の週間成績も記事にしていますので、良ければご覧いただければと思います。

<http://jaguar5150.seesaa.net/category/10117483-1.html>

それでは、皆様のトレードの成功をお祈りしています。

● フィボナッチ・リトレースメント (ペイオフレシオ比率)	・ 61.8%で仕掛けた場合	・ 38.2%で仕掛けた場合
・ 100%で仕掛けた場合	100.0% = 1 : 0.38	61.8% = 1 : 0.61
138.2% = 1 : 0.38	123.6% = 1 : 1.00 (COP)	100.0% = 1 : 1.61 (COP)
161.8% = 1 : 0.61 (COP)	138.2% = 1 : 1.23	123.6% = 1 : 2.23
200% = 1 : 1.00 (OP)	161.8% = 1 : 1.61 (OP)	138.2% = 1 : 2.61 (OP)
261.8% = 1 : 1.61 (XOP)	200% = 1 : 2.23	161.8% = 1 : 3.23
423.6% = 1 : 3.23	223.6% = 1 : 2.61 (XOP)	200% = 1 : 4.23 (XOP)
	423.6% = 1 : 5.85	223.6% = 1 : 4.85
		423.6% = 1 : 10.0